

東日本大震災に関する農業農村工学会の取組み

本会は、東日本大震災に対し、発生直後から災害対応特別委員会により調査団の派遣、提言、情報の提供等を行ってきました。数カ月を経た今日では、現地においてはすでに復興に向けた活動が力強く動き出しており、状況は次の段階へと展開しています。そこで、今後の活動の展開方向を見すえて、震災直後に定めたガイドラインを見直しました。会員諸氏が専門的な科学技術の知見を活かし被災地の復興に積極的に貢献されることを期待しております。また、研究委員会の下で活動してきた震災復興農村計画小委員会は、これまでの調査研究の成果を「東日本大震災復興農村計画への提言（第一次）」としてとりまとめ、関係方面に発信しました。同委員会は、さらに調査研究を進めます。

東日本大震災に関する活動をされた学会員は、災害対応特別委員会に情報提供をお願いします。寄せられた提言や情報を学会ホームページや学会誌等で公表し、会員間の情報共有と一層の社会貢献に努めます。

会 告

○「東日本大震災調査研究ガイドライン」の見直しについて.....	62
○平成 23 年度農業農村工学会大会講演会の開催について ㊦	63
○平成 23 年度会員名簿の掲載事項について	64
○平成 24 年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再） 締切 10 月 31 日	65
○平成 23 年度「戦略的研究申請支援」の助成金の申請について（再） 申請締切 9 月 16 日	65
○「農業農村工学会学術基金」への募金について.....	66
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い.....	66
○学会誌掲載論文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	67
○平成 24 年の表紙写真の募集 夏季締切 9 月 30 日	68
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております!	68
○国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと国際ジャーナル 「Paddy and Water Environment」について	69
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ	70
○第 14 回(2012 年)「日本水大賞」の募集について	71
○第 60 回北海道支部研究発表会の開催について（第 1 報） ㊦ 発表締切 8 月 31 日	71
○平成 23 年度東北支部総会・第 54 回東北支部研究発表会の開催について（第 2 報） ㊦ 発表締切 9 月 20 日	72
○中国四国支部第 66 回支部講演会ならびに第 35 回地方講習会の開催について（第 2 報） ㊦ 講演原稿締切 9 月 9 日	73
○九州支部第 92 回講演会・ポスターセッション 第 34 回講習会・シンポジウム・現地見学会の開催について（第 2 報） ㊦ 発表締切 9 月 5 日	74
農業農村工学会論文集第 274 号内容紹介.....	76
学会記事	78

第 79 巻第 9 号予定

展望：失われた 10 年：馬場俊介

小特集：農業土木遺構にみる技術の粋

- ①地域づくりに貢献する板羽目堰の技術の粋とその継承：中村好男
- ②＜水土の知＞に見る技術：渡邊紹裕ほか
- ③伝統的水利施設としての「マンボ」の実態と現代的意義：榎本 淳ほか
- ④歴史的水利システムである通潤用水を事例とした水管理の再考：島 武男ほか
- ⑤わが国の自然エネルギーを利用した農業水利遺構：廣瀬裕一ほか

技術リポート

- 北海道支部：地力の維持と低コストをめざした石礫破碎工法：後藤 准ほか
 関東支部：既設 RC 柵渠を外型枠として利用した排水路護岸工法：高乗洋史ほか
 京都支部：神通川流域カドミウム土壌汚染対策の取組み：河合義則
 中国四国支部：玄澤地区における函渠更生工法：佐田浩康ほか
 九州支部：玉名 3 期地区における水路トンネルの補修・補強工事：吉井磨史

小講座：文化的景観：松本精一

私のビジョン：農産物の生産性・安全性向上に向けた炭の活用について：亀山幸司

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成23年8月25, 26日	農村計画研究部会	第33回現地研修集会 ⓑ	未来への農業水利施設の継承	弘前市	79巻2号
平成23年9月6~9日	大会運営委員会	平成23年度農業農村工学会大会講演会 ⓑ		福岡市	78巻12号 79巻1,2,4,6,8号
平成23年10月11日	北海道支部	第60回研究発表会 ⓑ		札幌市	79巻8号
平成23年10月18, 19日	九州支部	第92回講演会・ポスターセッション、第34回講習会・シンポジウム・現地見学会 ⓑ		別府市	79巻7,8号
平成23年10月20日	資源循環研究部会	平成23年度研究発表会 ⓑ	未来のエネルギー・水・食料資源の循環に向けて	東京都	79巻7号
平成23年10月20, 21日	関東支部	第62回大会講演会 ⓑ		静岡市	79巻6,7号
平成23年10月20, 21日	中国四国支部	第66回講演会・第35回地方講習会 ⓑ		高知市	79巻6,8号
平成23年11月1, 2日	農村道路研究部会	第21回研究集会・現地研修会 ⓑ	農道のストックマネジメント	鹿児島市	79巻6,7号
平成23年11月10, 11日	農地保全研究部会	第32回研究集会 ⓑ	中山間地域における農地保全と耕作放棄対策	甲府市	79巻4,6号
平成23年11月17, 18日	京都支部	第68回研究発表会 ⓑ		奈良市	79巻4,6号
平成23年11月24, 25日	水文・水環境研究部会	第24回シンポジウム ⓑ	農林地および広域の水文・水環境	宇都宮市	79巻7号
平成23年11月26日	東北支部	平成23年度総会・第54回研究発表会 ⓑ		鶴岡市	79巻7,8号

「東日本大震災調査研究ガイドライン」の見直しについて

災害対応特別委員会

東日本大震災調査研究ガイドライン II

平成23年7月1日

(社) 農業農村工学会災害対応特別委員会

委員長 青山 咸康

農業農村工学会は、東北地方太平洋沖地震発生に際し災害対応特別委員会を3月15日に招集し、「東北地方太平洋沖地震に関する農業農村工学会の活動方針」を決定するとともに、現地の方々への十分な配慮のもとに調査を行うことを旨とする「東日本大震災調査ガイドライン」を3月末に作成し、これに基づいて調査活動を行って参りました。

4カ月を経た今日では、現地においてはすでに復興に向けた活動が力強く動き出しており、政府においても東日本大震災復興構想会議による「復興への提言」が公表されるなど、状況は次の段階へと展開しています。農業農村工学会においても、日本学術会議「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」に参画して「巨大地震と津波から国民の生命と国土を護るための基本方針」を公表しました。さらに、すでに多くの会員が研究部会等多様な体制で現地調査等を行っています。

そこで、今後の活動の展開方向を見ずえて、先に定めたガイドラインに示す項目2, 3の制約を緩和し、「東日本大震災調査研究ガイドライン II」に変更して、本会の活動の総合化とより一層の社会貢献に努めます。

記

1. 農業農村工学会の会員は、専門的な科学技術の知見を活かし被災地の復興に積極的に貢献されるべきこと。
2. 農業農村工学会は、災害対応特別委員会のほか、研究委員会、研究部会、ならびに適宜編成した調査団等により、組織的な調査研究を継続すること。
3. 農業農村工学会の会員は、震災やその復興に関する調査研究を実施した場合には、可能な限り、その活動内容や結果を学会の災害対応特別委員会に情報提供すること。
4. 農業農村工学会は、寄せられた提言や情報を学会ホームページや学会誌等で公表し、会員間の共有と社会への発信を図ること。
5. なお、現地調査に際しては、自らの責任において安全の確保を図ること。

(以上)

平成 23 年度農業農村工学会大会講演会の開催について

平成 23 年度農業農村工学会大会運営委員会

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



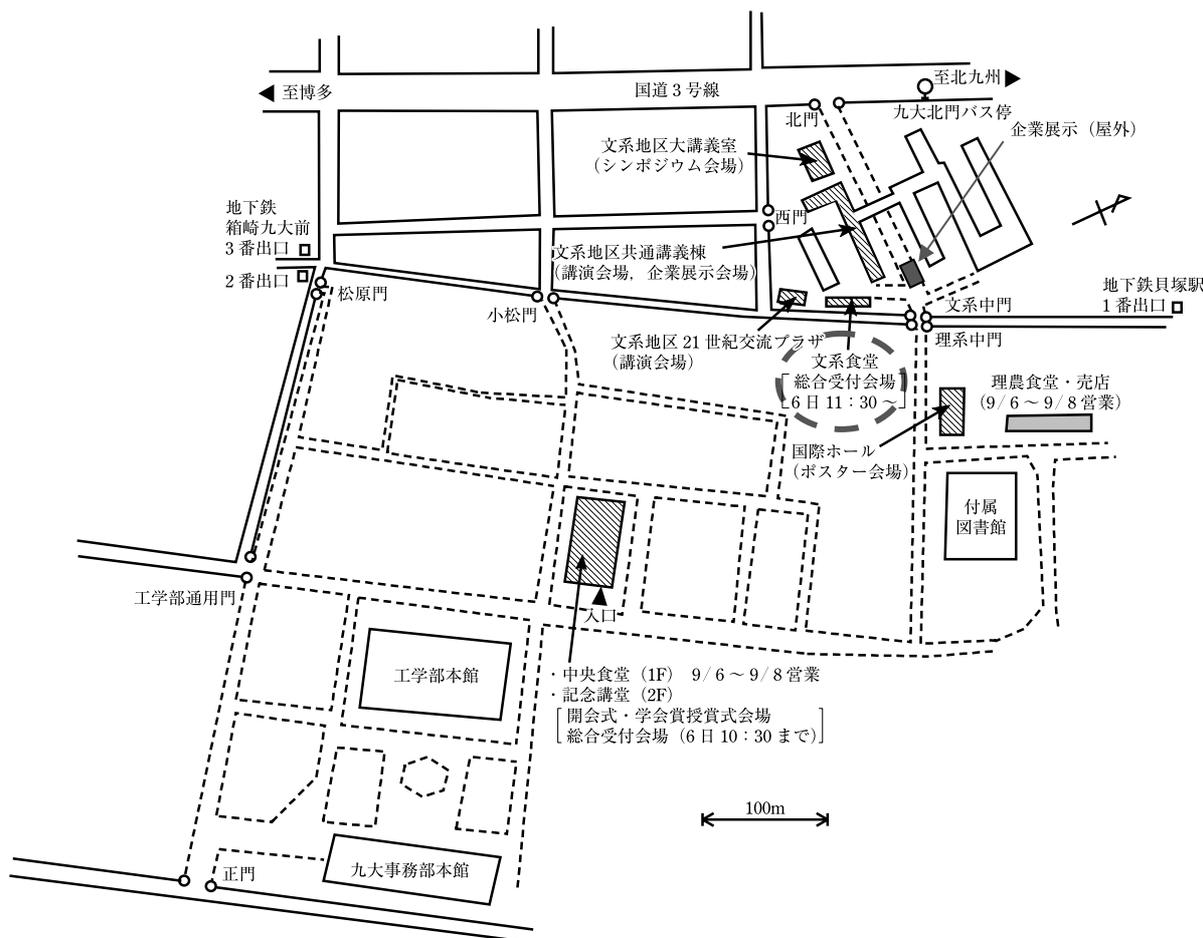
本年度の大会講演会は、9月6日(火)～9日(金)、九州大学箱崎キャンパスで開催されます。すでにご案内した内容の詳細が下記のように決定しましたので、お知らせします。

1. 大会受付

開会式および学会賞授与式の総合受付は、九州大学創立 50

周年記念講堂にて行います(9月6日(火) 10:30頃まで)。

開会式および学会賞授与式後の受付(9月6日(火) 11:30頃以降9月8日(木) 12:00頃まで)は、箱崎キャンパス文系食堂で行います。



2. 現地見学会

9月9日(金)に予定している現地見学会(諫早湾干拓事業視察コース)は、以下のように催行いたします。

(1) 主な行程

【8:20 JR博多駅(筑紫口)貸切バス専用駐車場集合
8:30 出発→11:00 着 諫早湾干拓見学 15:00 発→17:30 福岡空港着予定→18:00 JR博多駅(筑紫口)着予定】

諫早湾干拓地において、諫早湾干拓堤防管理事務所(事業概要説明)、潮受堤防中央部、営農支援センター(営農状況説明)および中央干拓地前面堤防中央部を見学し、白木峰高原(諫早平野や諫早湾干拓、雲仙普賢岳などを一望)を訪問します。天候により、行程が一部変更される場合があります。

(2) 集合場所

集合場所は、JR博多駅筑紫口、貸切バス専用駐車場です。

JR博多駅筑紫口を出ると、右手にホテルクリオコート、左手にホテルセンターザが見えます。ホテルセンターザ1階にコンビニ・ローソンがあります。ローソン前で受付をします。

※現在、若干数の空席がありますが、申込者多数の場合には、先着順とさせていただきます。ご了承下さい。

3. 口頭発表要領

各セッションの口頭発表は以下の要領で行っていただきます。

一般の口頭発表(企画セッションは除く)は1課題15分(発表12分、質疑応答3分)です。

(1) 講演発表の手順

発表者は各会場にある発表者受付で、セッション開始時

刻までに受付を済ませて下さい。各会場前方に「次の講演者」席を設けてありますので、ここで順次待機して下さい。

発表は会場に用意したパソコン（以降PC）を用いて行います。Windows 7とMicrosoft Power Point（2010形式まで対応）がインストールされたPCとプロジェクター（据付型）を各会場に用意します。USBメモリーなどで発表用データをお持ちいただき、セッションが始まる前（休憩時間中）にPCへのファイルコピーを完了させておいて下さい。

なお、発表者におかれましては、USBメモリー経由でファイルを移動される際には、前もって必ずアンチウイルスソフトでウイルス感染のないことを確認願います。また、発表用PCに接続した後のUSBメモリーのウイルス感染有無の確認・駆除についても、発表者側での対応をお願いします。

(2) 持参のPCでの発表を希望する場合

持参のPCを使用する場合は、プロジェクターへの接続確認をセッションが始まる前に必ず行って下さい。「次の講演者」席で、発表用ファイルを立ち上げたうえで発表をお待ち下さい。Mac OSをご利用の方はVGA変換アダプターを各自でご用意下さい。また、休憩時間中にもかかわらずプロジェクターの扱い方をご確認下さい。

4. ポスター発表

9月7日（水）（コアタイム）に予定しているポスター発表は以下の要領で行っていただきます。

(1) ポスター発表の皆様へ

ポスター発表は国際ホール（九州大学附属図書館の前）で行います（前ページで要確認）。発表会場までポスターをご持参下さい。掲示に必要なピンなどは事務局で用意します。ポスターは、大会1日目（9月6日（火））の13:

00から大会2日目（9月7日（水））の17:00まで掲示可能とします。発表者は、9月6日（火）13:00~17:00、9月7日（水）9:00~12:00の間に指定されたパネル（横900mm×高さ1,800mm）内に掲示し、9月7日の13:00~14:00のコアタイムには発表者がポスター前で説明ができるよう準備して下さい。9月7日12:00~15:00のポスター賞投票時間の終了後、ポスターの回収は発表者各自で17:00までをお願いします。（17:00に業者が後片付けを開始します。9月7日の15:00~17:00に回収されなかったポスターは事務局で処分いたします。）

(2) ポスター賞について

優秀なポスターについては、大会運営委員会が優秀ポスター賞を授与します。ポスター会場に、ポスター賞投票用紙を用意しますので、お1人1枚をお取りいただき、賞にふさわしいと思われるポスターにご投票下さい。大会2日目（9月7日）の15:00に投票を締め切り、選考結果は大会終了後の学会誌上においてお知らせします。

5. 企業展示

企業展示には、11団体からの申込み（屋外：1、屋内：10）がありました。屋外の企業展示は、前ページの地図（右上部）に掲載しますように文系中門付近で行います。また屋内の企業展示は、文系共通講義棟2階の207、209番講義室で行います。

6. 会場までの交通

開会式および学会賞授与式ならびに各講演会場へのご来場には、地下鉄・箱崎線の箱崎九大前駅で降車して下さい。当駅から会場まで案内板を設置しています。

なお、博多駅からJR線ご利用の場合、JR箱崎駅での下車となりますが、箱崎駅から会場までの案内板の設置、ならびに誘導員の配置を予定しておりませんので、ご注意下さい。

平成23年度会員名簿の掲載事項について

平成23年度版の当学会会員名簿の発行に係る掲載事項については、個人情報の保護に関する法律の規定に基づき、従来どおり当学会の「会員名簿の発行に伴う個人情報の扱い」により対処しますので、掲載事項としている下記の事項について、掲載に同意されないものがあれば、会員番号と氏名を明記のうえ、郵送、E-mail またはFAXで、10月3日（月）までにご連絡下さい。（非掲載項目につきましては、前年度までにご連絡を頂いていて、変更のない場合は再度ご連絡を頂かなくても結構です。）

なお、ご連絡がない場合は、下記事項の掲載に同意されたこととさせていただきます。

記

会員名簿掲載事項

- ①【氏名】 ②【会員番号】 ③【出身校】 ④【卒年】

- ⑤【資格】 ⑥【勤務先および役職】 ⑦【自宅住所】
⑧【自宅電話番号】

連絡先

郵送の場合：〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

農業農村工学会 馬目あて

E-mailの場合：manome@jsidre.or.jp

FAXの場合：03-3435-8494

(参考)

会員名簿発行に伴う個人情報の扱い

以下の項目を遵守することによって、個人情報取扱義務を全うする。

1. 利用目的の特定、利用目的による制限

農業農村工学会会員名簿の作成業務及び会員管理にのみ利用し、この範囲を超えて利用しない。

- 2. データ内容の正確性の確保
個人情報の正確性、最新性を確保する。
- 3. 安全管理措置、従業者、委託先の監督
安全管理のために、学会職員、印刷業者等に対して必要
- 4. 第三者提供の制限
名簿は、(社)農業農村工学会定款第6条に定める会員及び同会員が所属する機関に限り原価にて頒布する。

平成 24 年度農業農村工学会賞候補の推薦について (再)

平成 24 年度の農業農村工学会賞 (上野賞, 沢田賞を除く) 締切りは、平成 23 年 10 月末日です。推薦書様式および、
を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。 受賞規程は学会 HP をご参照下さい。

平成 24 年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種類	学術賞	奨励賞		優秀賞				
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞		
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術と認められる優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与する優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績		
賞の対象範囲および期間	平成 18 年 10 月から平成 23 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 20 年 10 月から平成 23 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 20 年 10 月から平成 23 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 22 年 10 月から平成 23 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。	平成 21 年 10 月から平成 23 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。主として現場調査資料、現場技術報告書から選ぶ。	平成 18 年 10 月から平成 23 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された技術リポート		
受賞候補者	個人			個人または組織・団体		個人		
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。			正会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。				
賞の種類	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる業績	農業農村工学教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行いもしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く紹介、あるいは研究分析の業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術・技術についての、国際的な交流・調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介した優れたパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大な功労のあったと認められる者
賞の対象範囲および期間	平成 13 年 10 月から平成 23 年 9 月までに出版されている一般の図書。ただし、ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあたっては全面改訂したもののみを対象とする。	平成 13 年 10 月から平成 23 年 9 月までの業績を対象とする。	平成 21 年 10 月から平成 23 年 9 月までに本学会の刊行物または、関係する図書に発表されたもの。また、完工した建設物、維持保全管理活動等も対象とする。	平成 18 年 10 月から平成 23 年 9 月までの業績を対象とする。	平成 18 年 10 月から平成 23 年 9 月までの活動を対象とする。	平成 18 年 10 月から平成 23 年 9 月までの活動を対象とする。	平成 21 年 10 月から平成 23 年 9 月までに発表された、農業農村工学に関連した作品を対象とする。	平成 23 年度末に 65 歳以上に達している個人
受賞候補者	著者	個人または組織・団体			個人	個人または組織・団体	個人	
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。	正会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。	正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。	正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。	
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	平成 23 年 10 月末日							
提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

平成 23 年度「戦略的研究申請支援」の助成金の申請について (再)

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60 万円程度 (原則 1 件 20 万円以内) です。
本年度の申請締切は平成 23 年 9 月 16 日 (金) です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式

(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成金の配布グループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。
 - (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究するこ

とが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

- (ロ)「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成23年9月16日（金）

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長宛

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名） (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容(500字程度)
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

「農業農村工学会学術基金」への募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成22年度までに56件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術の見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿（2年ごと更新）に記載して、緊急災害時等の場合に現地調査を行っていただきます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則2～3日とする。

- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額300万円）。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail: saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数のご参加をお待ちしております。

なお、登録いただいた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

行事企画委員会

技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

行事企画委員会では、継続教育機構の個人登録者となっている学会員が、在宅のまま手軽に CPD 単位取得ができる方法として、平成 17 年 10 月号より学会誌上を通じて「CPD 通信教育」を実施しています。これまでの実績として、毎回多くの解答者が 2 CPD ポイントを取得しており、自己学習での年間最大 10 CPD ポイントとは別に、通信教育分として年間最大 24 CPD ポイントを取得するチャンスとなっています。まずはご登録をいただき、是非、通信教育にご解答をお寄せ下さい。

1. 参加資格

参加資格条件としては、農業農村工学会の個人会員であり、かつ継続教育機構の CPD 個人登録者に限ります。学会へのご入会や CPD 個人登録をされていない方は農業農村工学会と継続教育機構のホームページから入会申込書、登録申込書をダウンロードし、それぞれ手続きを行って下さい。

2. 参加登録受付の時期と登録方法

参加登録の受付は随時行っています。登録方法は継続教育機構のホームページにある「通信教育参加申込書」(<http://www.jsidre.or.jp/cpd/tushinkyouikukaitou/moushikomipeji.html>) に必要事項を記入し、メール (kaito@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX(03-5777-2099) で送付して下さい。

3. 出題方法

出題は毎回、3カ月前に発刊された学会誌の報文等の事実的な内容から、択一式の問題を CPD 運営委員会通信教育部会が 10 問作成し、学会誌上に掲載します。なお、学会新入会者への学会誌の送本は“入会が承認された月の号から”となっています。ご入会前の学会誌が必要な場合は、バックナンバーとして販売（送料込み 1,270 円×冊数）いたしますので、別途お申し込み下さい。

4. 解答方法と解答期限

解答の方法としては、継続教育機構のホームページにある「通

信教育解答用紙」(<http://www.jsidre.or.jp/cpd/tushinkyouikukaitou/kaitoupeji.html>) をダウンロードし、正解と思う番号および必要事項を記入して、メール (kaito@cpd.jsidre.or.jp) で送付して下さい。なお、解答期限が、8 月号掲載の第 71 回通信教育問題より「問題掲載号の翌月末日まで」(例：8 月号掲載分の場合、9 月 30 日まで) となります。期限を過ぎた解答の受付は一切できませんので、十分ご注意ください。

5. CPD ポイントの採点とポイント集計年度区分

採点の結果、7 割以上正解で 1.5 CPD ポイント、満点で 2 CPD ポイントの取得となり、前年度の 2 月号出題分から当該年度の 1 月号出題分までの 12 カ月分を、当該年度の通信教育での CPD 取得ポイント分として取得者個々の継続教育記録に自動登録いたします。採点後のポイント取得結果は（下記 7. で取得結果送付を希望する方以外は）毎年 8 月頃に送付する「CPD 取得一覧表」でお知らせします。それまでは出題の翌々月に学会誌上で公表する「解答」から、自己採点をお願いします。なお、解答は技術者倫理に則り、自らの責任で作成して下さい。

6. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です（ただし学会誌のバックナンバー代については参加者負担）。

7. CPD 通信教育参加者の特典

毎年 4 月に、前年度分（2 月号～翌 1 月号分）の通信教育で取得した CPD 採点結果を算出します。採点結果の通知が必要な通信教育登録者は、事前に農業農村工学会継続教育部までご連絡下さい。また、5 月上旬から通信教育で取得したポイント分についての「CPD 取得証明書」を希望者に有料で発行いたします。

平成24年の表紙写真の募集

学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成24年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。平成24年分の募集からテーマが変わりました。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号

学会誌第80巻（平成24年1～12月号）

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定）撮影して下さい（サイズは六ツ切）。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 夏季 平成23年9月30日

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第80巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成24年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1点につき3万円）をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用权

採用作品の使用权は（社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを中心とします。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（社）農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 79, 80 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
79 巻 10 号 愛知用水通水 50 周年 (仮)	公募なし
11 号 再生水の農業利用の動向と課題 (仮)	公募なし
12 号 地球環境 (地球温暖化) 問題への取組みと今後の課題 (仮)	公募なし
80 巻 1 号 農業農村工学分野における戦略的アウトリーチ活動 (仮)	平成 23 年 8 月 25 日
2 号 国内外における農地での塩類集積の事例と課題 (仮)	平成 23 年 9 月 22 日
3 号 これからの農業水利施設の管理運営のあり方について (仮)	平成 23 年 10 月 25 日
4 号 東日本大震災から 1 年 (仮)	公募なし
5 号 土壌保全とその評価 (仮)	平成 23 年 12 月 25 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
(社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
E-mail: henshu@jsidre.or.jp

80 巻 1 号テーマ「農業農村工学分野における戦略的アウトリーチ活動」(仮)

農業農村工学分野におけるアウトリーチとは、普段、農業農村工学分野の施設・事業・研究に触れる機会の少ない一般市民に対して行われる普及活動である。近年、公共性の高い基盤整備事業や大学および研究機関も、国民に対してその事業や教育・研究内容についての説明責任を求められることが多くなった。一方国民は、報道などの一面的な情報によって農業農村工学の果たしている役割を正確に理解しているとは言い難い状況にある。

このような背景において、国や県などの地方自治体、土地改良区、大学および研究機関では、あらゆる機会を利用してアウトリーチ活動が展開されている。中でも、「田んぼの学校」支援センターがサポートする田んぼの学校や、福島県土地改良事業団体連合会が行っている「水土里の案内人」活動などは、農業農村工学分野を広くアウトリーチしている活動であるといえ

る。農業農村工学分野以外でも、(財)ダム協会が認定している「ダムマイスター」、山形大学が中心となっている「星のソムリエ」資格認定制度などは、特定の知識や技術を一般の国民に戦略的にアウトリーチしている活動であるといえる。さらに、環境省の「いきものみつけ」のような WEB を活用した情報収集発信システムの構築なども、若年層のインターネットによる情報収集依存度の高まりを踏まえると、今後のアウトリーチ活動に重要な意味を持つてくると考えられる。

本特集では、このようなアウトリーチ活動の手法と継続的なアウトリーチ活動による効果と課題を明らかにする報告、各機関におけるアウトリーチ活動の連携を目的とした活動とその効果と課題を明らかにする報告、WEB を活用した情報収集発信システムの構築に関する研究論文を広く募集いたします。

80 巻 2 号テーマ「国内外における農地での塩類集積の事例と課題」(仮)

農地における塩類集積とそれに伴う塩害が世界各地に広がっています。地球人口は現在では約 70 億人ですが 2050 年には 90 億人を超えるとも予測されています。人口増加に対応するために世界的な食糧増産が求められていますが、農地における塩害の拡大が大きな障害となる恐れがあります。

塩類集積の原因にはさまざまな要因があり、それぞれ発生メ

カニズムも異なると考えられます。世界的に広がる塩類集積の実態や塩害事例、対策、予防などに関する知見を幅広く蓄積することが塩害の拡散防止と被害の縮小につながるものと考えます。

本特集では、国内外を問わず世界各地に広がる塩類集積の事例やその対策等に関する報告を広く募集します。

国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方が国際学会へ入会されることを希望しま

す。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理，水収支，灌漑施設，栽培管理）
- ② 排水（排水管理，排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良，土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発，水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節，地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生，陸生動物植物の生態系）
- ⑦ 地域計画（農村計画，土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境，土壌環境，気象環境）
- ⑨ 水田の多目的利用（田畑転換，施設園芸）

⑩ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

水田農業を通じた国際的な研究交流，情報交換の場として，皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと，会員には国際ジャーナルが，年4回無料で配布されます。

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

発行スケジュール：年4回（3，6，8，12月）

国際学会会費：正会員 12,000 円（農業農村工学会員に限る）

学生会員（院生含む）8,500 円（農業農村工学会員に限る）

申込先：農業農村工学会編集出版部 中村あて

ホームページ：http://www.jsidre.or.jp

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009年1月から2011年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering）の機関誌，国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は，2011年9月末に Vol.9, No.3 が発行されます。

本ジャーナルは2009年12月より，トムソン・ロイター社の SCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に，SCIE の IF (Impact Factor) が利用されており，本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価を得ております。

また，世界13カ国から Editor (23名) を選出することにより，国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし，さらに国際的な流通を考慮して，国際出版社として著名な Springer-Verlag 社からの刊行です。掲載論文は，Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに，年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが，**投稿料，掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局（投稿先）は，台湾です。なお，2010年10月1日付で，これまで編集長を勤めていただいた中野芳輔先生から，溝口 勝先生に編集長の交代がありました。

投稿先：Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No.1, Sec.4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C)

E-mail : yplin@ntu.edu.tw

TEL : +8862-2-3366-3467 FAX : +8862-2-2363-5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技

術の発展への貢献を目的としている。

その分野は，水田農業地帯における灌漑と排水，土壌保全，土地資源や水資源の保全と管理，水田の多面的機能，農業政策，地域計画，バイオ環境システム，生態系の保全，水田保全，田畑輪換等である。

編集体制

• Editor-in-Chief : Dr. Masaru Mizoguchi (Japan)

Graduate School of Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

• Editors 13カ国から23名

• Editing Board 35名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Prof. Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Prof. Dr. Yoshiyuki SHINOBU

Faculty of Agriculture, Kyushu University, Fukuoka, Japan

Prof. Dr. Haruhiko HORINO

Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

Prof. Dr. Jin-Yong CHOI

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Seoul, Korea

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載していま

す。

第14回(2012年)「日本水大賞」の募集について

1. 目的

日本水大賞は、安全な水、きれいな水、おいしい水にあふれる21世紀の日本と地球を目指し、水循環系の健全化に寄与することを目的としています。

2. 対象範囲

(1) 対象となる活動分野

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、水防災、水資源、水環境、水文化、のような分野における諸活動(研究、技術開発を含む)を対象とします。

(2) 対象となる活動主体

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、学校、企業、団体、個人、行政の方々を実施する諸活動を対象とします。なお、個人、法人、グループの種別、年齢、職業、性別、国籍等を問いません。

3. 日本水大賞の内容

対象となる活動の中から、優れたものに対して以下の賞を授与し、広く公表します。なお、副賞は受賞活動を更に継続していただくよう授与しています。

- ①大賞【グランプリ】(賞状・副賞200万円)
- ②大臣賞(賞状・副賞50万円)
【国土交通大臣賞】【環境大臣賞】【厚生労働大臣賞】
【農林水産大臣賞】【文部科学大臣賞】【経済産業大臣賞】
- ③市民活動賞【読売新聞社賞】(賞状・副賞30万円)
- ④国際貢献賞(賞状・副賞30万円)
- ⑤未来開拓賞(賞状・副賞10万円)
- ⑥審査部会特別賞(賞状・副賞10万円)
- ⑦タイムリー賞(公募なし)

4. 選定の方法等

日本水大賞委員会の下に、上記の賞を選考するために各々の審査部会を設置し、表彰対象となる活動を審査し、最終的には日本水大賞委員会が決定します。

5. 募集期間

平成23年7月7日(木)～11月30日(水)(郵送の場合

は当日消印有効)

6. 応募方法

応募用紙(3枚:ホームページからダウンロードして下さい)に必要事項をご記入の上、応募用紙および添付資料を事務局あてに送付または持参して下さい。応募用紙および添付資料が電子データの場合は、E-mailでも応募を受け付けます。

応募方法の詳細はホームページを参照して下さい。

7. 審査結果の公表

審査の結果は、平成24年3月下旬に公益社団法人日本河川協会のホームページおよび新聞紙上にて公表する予定です。入賞者には個別にご連絡いたします。

8. 主催等

- (1) 主催 日本水大賞委員会
名誉総裁 秋篠宮文仁殿下
委員長 毛利 衛(日本科学未来館館長)
副委員長 虫明功臣(法政大学大学院工学研究科客員教授)

(2) 後援

環境省、外務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、(社)農業農村工学会ほか33団体

(3) 協賛

「川の日」実行委員会ほか4団体

9. 送付先・問合せ先

【日本水大賞委員会事務局】
公益社団法人日本河川協会
〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-6-5 麹町 E.C.K ビル 3階
☎03-3238-9771 FAX 03-3288-2426

E-mail: taisyo@japanriver.or.jp

担当: 高野、佐藤(平日9:15～17:30)

ホームページ: <http://www.japanriver.or.jp/taisyo/>

<「日本水大賞」は、(財)河川環境管理財団河川整備基金の助成を受けて実施しています>

第60回北海道支部研究発表会の開催について(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



- 1. 期 日 平成23年10月11日(火)
- 2. 会 場 札幌市・北海道大学学術交流会館2階講堂
(札幌市北区北8条西5丁目・北大正門すぐ)
- 3. 研究発表申込み
発表を希望する方は投稿原稿に先立ち、発表表題・発表者名と発表形式の希望(口頭またはポスター)をE-mail, FAXまたは郵送にてお申し込み下さい。

発表申込みの締切は平成23年8月31日(水)です。
発表申込者には折り返し講演集原稿作成要領をお送りします。

講演集原稿の締切は平成22年9月16日(金)です。

4. 参加申込み

下記様式により、E-mail, FAXまたは郵送にてお申し込み下さい。

参加申込締切は平成23年9月30日(金)です。

所属機関		
同上所在地		
申込代表者	TEL	
氏名	所属	備考

5. 発表・参加申込先

〒060-8589 北海道大学大学院農学研究院内

農業農村工学会北海道支部事務局

担当：柏木淳一 E-mail: kashi@envagr.hokudai.ac.jp

☎011-706-3641 FAX 011-706-2494

6. 参加費用

2,000円(当日会場にて申し受けます。)

平成23年度東北支部総会・第54回東北支部研究発表会の開催について(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期日 平成23年11月26日(土)

2. 会場 山形大学農学部(鶴岡キャンパス)

〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町1-23

☎0235-28-2908 FAX 0235-28-2901

【会場担当：梶原晶彦】

3. プログラム(予定)

(1) 総会ならびに研究発表会

〈支部総会〉

9:00~9:30 会員受付

9:30~10:15 支部総会

10:15~10:45 支部賞授賞式

10:45~11:00 休憩

(10:30~11:00 一般受付)

11:00~12:30 特別報告会(公開)

(東日本大震災「農地・農業施設被害調査」報告)

12:30~13:30 昼食・休憩

〈第54回東北支部研究発表会〉

13:30~14:20 ポスター発表(コアタイム)

(東日本大震災「農地・農業施設被害調査」関係のポスター報告含む)

14:30~17:10 口頭発表

(2) 情報交換会

18:30~20:00 会場：東京第一ホテル鶴岡

4. 研究発表および参加申込み

平成23年度の支部大会全般を山形県が担当しますが、研究発表会のプログラム編集は秋田県立大学が担当します。

本報では「研究発表申込み」についてご案内し、「参加申込み(10月31日締切)」等は、本誌第79巻第9号掲載予定の「第3報」にてご案内する予定です。

(1) 研究発表申込み・問合せ先

研究発表要旨集原稿に投稿票を添えて、下記にお申し込み下さい。

〈申込み・問合せ先〉

〒010-0444 秋田県南秋田郡大湯村字南2-2

秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科

近藤 正

☎0185-45-3918 FAX 0185-45-2377

E-mail: t_kondo@akita-pu.ac.jp

(2) 投稿要領

研究発表要旨集原稿・投稿票の書き方については下記の農業農村工学会ホームページを参照して下さい。

<http://www.jsidre.or.jp/newinfo/23shibu/>

(3) 発表時間・発表手段

発表時間は15分以内(発表12分、質疑3分)

発表補助手段：パソコン、CD-R、USBメモリ使用可

(各会場PCは、OS Windows、ソフトPower Point 2003を準備します。)

(4) 研究発表申込受付期間

平成23年8月10日(水)~9月20日(火)

(5) ポスター発表について

平成23年度の東北支部大会では、ポスター展示による発表・報告会場を設置いたします。ポスターでの発表・報告を希望される方は、投稿票にポスター希望と記し、発表要旨原稿とともに上記にお申し込み下さい。

ポスター発表のスペースは、1件につき横幅約100cm×高さ約180cmを用意します。ポスターは当日の午前中までに発表者ご自身で所定の場所に掲示願います。

5. 会場への案内

山形大学農学部(鶴岡キャンパス)

(1) JR鶴岡駅から南西へ約1.5km(徒歩約15分)

(2) 山形駅から鶴岡駅までの所要時間：

バス約100分、JR約120分

(3) 航空機利用の場合：

庄内空港から鶴岡駅まで連絡バス約25分

6. 宿泊について

宿泊についての斡旋はいたしませんので、ご了承下さい。

※東北支部大会の最新情報は下記ホームページでお知らせいたしますので、ご活用下さい。

<http://www.jsidre.or.jp/shibu/tohoku/right.html>

中国四国支部第 66 回支部講演会ならびに第 35 回地方講習会の開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日 程 平成 23 年 10 月 20 日 (木) ~10 月 21 日 (金)

(1) 支部講演会

日時：平成 23 年 10 月 20 日 (木) 9:00~17:00

会場：高知市文化プラザかるぼーと

〒780-8529 高知市九反田 2-1

☎088-883-5011

<http://www.bunkaplaza.or.jp/>

プログラム：

受付開始 9:30

開会式 10:15~10:30 (2F 小ホール)

支部賞表彰式 10:30~10:50 ()

特別講演 11:00~12:00 ()

講 師：畦地履正

テーマ：「四万十川方式」地元発着型産業づくり

〈昼食 12:00~13:00〉

一般講演 13:00~17:00

第一会場 2F 小ホール

第二会場 9F 第 3 学習室

第三会場 11F 大講義室

(2) 情報交換会

日時：平成 23 年 10 月 20 日 (木) 18:00~20:00

会場：高知会館

〒780-0870 高知市本町 5-6-42

☎088-823-7123

<http://www.kochikaikan.jp/>

(3) 地方講習会

日時：平成 23 年 10 月 21 日 (金) 9:00~12:00

会場：高知市文化プラザかるぼーと (2F 小ホール)

〒780-8529 高知市九反田 2-1

☎088-883-5011

<http://www.bunkaplaza.or.jp/>

内容：「農業用水施設の長寿命化のための手引き」(仮)

「東日本大震災による農業被害報告」(仮)

2. 講演申込み

(1) 投稿・講演要領

1) 講演原稿

講演原稿は、図、表、写真などを含め 1 課題 3 ページ以内とします。

投稿者は、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) の支部講演会投稿要領に従って原稿を作成し、原稿を PDF にしたファイルと投稿票をメールにより上記講演発表原稿提出先あてにお送り下さい。投稿票ファイルは学会のホームページからダウ

ンロードして下さい。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」として下さい。受領確認はメールで返信しますので、受領はがきは不要です。なお、発表時期や発表方法などについては、事務局から連絡をする場合がありますので、講演者 (○印) の方は必ず連絡先メールアドレスをお書き下さい。

原稿は PDF を原則としますが、それが可能でない場合は市販の A4 判上質紙 (コピー用紙などをご利用下さい。感熱紙は不可) に印字したモノクロ原稿を、支部講演会投稿要領に従って投稿票とともに郵送して下さい。

2) 発表資格

発表者のうち、少なくとも 1 名が会員であることが必要です。

3) 講演方法

個人発表とし、講演補助として、液晶プロジェクターのみ準備します。

4) 講演時間

1 課題につき 12 分程度です。

5) 講演要旨集

申込みのあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、印刷はモノクロとなります。

6) 参加申込み

講演者は講演申込みとは別に参加申込み (下記 3.) も行い、必ず参加費を納入して下さい。

7) 原稿の締切

平成 23 年 9 月 9 日 (金) 必着 (遅延は不可)

(2) 優秀賞・研鑽賞・奨励賞の表彰条件

優秀賞・研鑽賞・奨励賞の受賞対象条件を学会 HP (新着情報「中国四国支部 支部賞規程」) に掲載しますので投稿者は事前に確認して下さい。

3. 申込方法

(1) 申込書

所定の申込様式 (次ページ) により所属機関ごとにまとめ、下記 (5) までお申し込み下さい。

(2) 申込締切日 平成 23 年 9 月 9 日 (金)

(3) 参加費等

講演会参加費 3,000 円

※講演者を含め、講演会に参加される方は必ずお支払い下さい。

昼食代 1,000 円

情報交換会 5,000 円

地方講習会 3,000 円 (非会員 4,000 円)

(4) 参加費等の納入方法

【申込様式】

第66回農業農村工学会中国四国支部講演会ならびに
第35回地方講習会参加申込書

所属機関名： _____
所在地：(〒 -) _____
連絡者名(ふりがな)： _____
電話番号： _____
FAX番号： _____
E-mailアドレス： _____

所属	氏名	ふりがな	講演希望	【20日】			【21日】	合計 (円)	備考
				講演会 参加費 (3,000円)	昼食 (1,000円)	情報 交換会 (5,000円)	地方講習会 (3,000円) (非会員： 4,000円)		
計									

注1) 出席または必要の場合は○印, 欠席または不要の場合は×印をご記入下さい。

注2) 講演者は, 講演希望欄に必ず○をご記入下さい。

注3) 20日の講演会の昼食は, 当日お渡しします「弁当引換券」にて配布します。

参加申込みと同時に次の銀行口座に全額前納をお願いします。振込手数料については, 振込人負担をお願いします。また, 振込元がわかるように, 所属・氏名等は必ずご記入下さい。

なお, 振込後の参加費等の返金には原則応じられませんのでご注意下さい。

【振込口座】

銀行名：高知銀行 県庁支店

店番：089

口座番号：普通 3002207

名義人：農業農村工学会中国四国支部 高知県実行委員会
(ノウギョウノウソノコウガクカイチュウゴクシコクシブ
コウチケンジッコウイインカイ)

(5) 申込みおよび問合せ

1) 情報交換会および地方講習会に関する問合せ先

高知県農業振興部農業基盤課 橋田, 椋田

〒780-0850 高知市丸ノ内1-7-52

☎088-821-4561 FAX 088-821-4567

E-mail: 161101@ken.pref.kochi.lg.jp

2) 講演申込み・参加申込みおよび支部講演会に関する問合せ先

高知大学農学部門 佐藤 周之

〒783-8502 南国市物部乙200

☎088-864-5150 FAX 088-864-5150

E-mail: syu@kochi-u.ac.jp

(6) 宿泊案内

実行委員会事務局では, 宿泊の斡旋・手配等はいたしませんので, 各自で対応して下さい。

九州支部第92回講演会・ポスターセッション 第34回講習会・シンポジウム・現地見学会の開催について(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日時

平成23年10月18日(火)

9:30~17:00 講演会・ポスターセッション

平成23年10月19日(水)

9:00~17:00 講習会・シンポジウム(午前)
現地見学会(午後)

2. 会場(講演会・ポスターセッション・講習会・シンポジウム)

別府国際コンベンションセンター(別府ビーコンプラザ)

〒874-0828 別府市山の手町12-1 ☎0977-26-7111

※ホームページアドレス <http://www.b-conplaza.jp/>

※【徒歩】JR別府駅から西へ1.3km(徒歩15分)

【バス】別府駅西口3番のりばより, 行先番号③(扇山団地行き), または行先番号⑧(スギノイパレス行き)で約5分。大人片道160円。

3. プログラム

(1) 10月18日(火) 講演会・ポスターセッション

① 9:00~9:30 受付

② 9:30~10:00 開会式(中会議室)

③ 10:00~10:20 支部賞表彰式(中会議室)

10:20~10:30 (休憩)

④ 10:30~17:00 講演会(第1~3会場予定)

第1会場:小会議室31(3F)

第2会場:小会議室32(3F)

第3会場:小会議室2,3(B1F)

⑤ 12:00~17:00 ポスターセッション

会場近隣展示スペース(1F)

(2) 10月19日(水) 講習会

場所:第1会場 小会議室31(3F)

課題:「農業用水施設の長寿命化のための手引き」(仮)

(3) 10月19日(水) シンポジウム

場所:第3会場 小会議室2,3(B1F)

時間:9:00~10:50

課題:「九州と沖縄における土と水に関する諸課題」

(4) 10月19日(水) ポスターセッション表彰式

場所:第3会場 小会議室2,3(B1F)

時間:10:50~11:00

(5) 10月19日(水) 現地見学会

集合時間:11:20

集合場所:別府国際コンベンションセンター(正面玄関前)

予定コース:(出発)別府国際コンベンションセンター

11:20→12:30 昼食会場 13:15→13:15 富貴寺 13:

45→13：50 県営経営体育成基盤整備事業跡地区 14：20→14：50 昭和の町（豊後高田市）15：35→15：45 宇佐駅 15：50→16：52 トキハ別府店前 16：55→17：00 別府駅（解散）

4. 参加費用

	10月18日（火）		10月19日（水）		
	講演会等 参加費用	昼食 （弁当）	講習会等 参加費用	現地見学会	
一般料金	6,000円	1,000円	2,000円	参加費用	昼食代
学生料金	3,000円	1,000円	1,000円	2,000円	1,000円

※10月19日（水）現地見学会については、行程の中に昼食時間を予定しているため、参加される場合は昼食も併せて申込みをされますようお願いいたします。

5. 講演会の講演申込み

平成23年度の全体的な運営については大分県が担当しますが、講演会等のプログラム編集は鹿児島大学が担当します。講演申込み（原稿投稿先）は下記によりお申し込み下さい。なお、昨年度の九州支部役員会において、学生会員（学部生・研究生・大学院修士）は次項のポスターセッションに申し込むことが確認されています。対象となる学生会員は口頭発表ではなく、ポスターセッションにお申し込み下さい。

- (1) 投稿締切 平成23年9月5日（月）
- (2) 投稿先

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学農学部 肥山浩樹 宛
TEL & FAX 099-285-8694（直通）
E-mail：hiyama@agri.kagoshima-u.ac.jp

- (3) 投稿要領

講演希望者は、「講演原稿」と別紙「講演会投稿票」を投稿先（鹿児島大学農学部肥山）までお送り下さい。今年度から、講演原稿はPDFを原則としますが、それが可能でない場合は「ワード」または「一太郎」ファイルで投稿して下さい。いずれの場合にも、特殊なフォントはファイルに埋め込んで下さい。

- (4) 原稿の書き方

図・表・写真等を含めて、1題につき2ページまたは4ページとし、3ページや5ページ以上の原稿は受け付けません。原稿や投稿票の作成方法は（社）農業農村工学会ホームページに掲載（<http://www.jsidre.or.jp/newinfo/22shibu/>）されていますので、参照またはダウンロードして下さい。

- (5) 講演方法

1題につき、質問・交代時間を含めて10～12分程度を予定しています。なお、講演の補助機材としてパソコン（OS：WindowsXP、ソフト：MS-PowerPoint 2007）とプロジェクターを事務局で用意しますが、OHPやスライド

は準備しませんので、ご了承下さい。

6. ポスターセッションの申込み

原則として学生会員（学部生・研究生・大学院修士）を対象に募集します。ポスターセッションは、研究の背景や成果および将来への展望などを発表者と参加者が1対1の差し向かいで討議できるという口頭発表では実現しがたい特徴を備えています。また、発表者の中からポスター賞を若干名に授与します。

ポスター申込みは講演会の講演申込みに準じることとしますので、事前のポスター送付は不要です。投稿要領と原稿の書き方を参照の上、2ページまたは4ページにて締切日までに原稿を投稿下さい。なお、投稿票の6.発表使用機材欄には「ポスター」と記入して下さい。

- (1) 枚数 1課題A0判1枚以内
- (2) 掲示

ポスターは、10月18日（火）12：00までに本人の責任で所定の位置に掲示して下さい。当日は掲示用に2.1m（縦）×1.8m（幅）のパネルを設置する予定です。

7. 参加申込方法

- (1) 参加申込み

参加申込書により所属（大学）ごとに取りまとめ、メールおよびFAXで事務局へお申し込み下さい。講演およびポスターセッション希望者についても、申込みが必要です。

なお、参加申込書様式（MS-Excel形式）は下記アドレスからダウンロードして下さい。

アドレス：

<http://www.jsidre.or.jp/newinfo/kyushushibu.htm>

- (2) 申込期限 平成23年9月2日（金）

なお、会場の都合により定員になり次第締め切りますので、お早めにお申し込み下さい。

- (3) 参加費の納入

銀行振込か当日支払いとなります。どちらで納入するか、参加申込書へご記入願います。

10月初旬以降に、請求書を送付致します。指定期日までにお振り込みいただくか、当日会場にてお支払い下さい。

なお、振込後の参加費用等の返還には応じられませんので、ご注意下さい。

- (4) 宿泊について

宿泊の斡旋・手配は行いませんので、ご了承下さい。

8. 参加申込先・問合せ先

農業農村工学会九州支部講演会・講習会運営事務局
大分県農林水産部工事技術管理室 担当：牧，黒岩
〒870-8501 大分市大手町3-1-1
☎097-506-3533 FAX 097-506-1757
E-mail：kuroiwa-satoshi@pref.oita.lg.jp（黒岩）